

令和7年度 学校評価実施報告書

学校名: 枚方市立樟葉南小学校
 校長名: 近藤 美佐

1. 学校教育目標

「夢や志を持ち、変化の激しい未来を生き抜く、たくましい子どもの育成 ～笑顔あふれる学校～」

2. めざす子ども像

◇確かな学力(主として教科) 知・技 … 各学年において基礎的な読み・書き・計算ができる 思・判・表 … 自分の考えをまどめ、わかりやすく伝えることができる(聞く・話す・書くなど) 学び・人間性 … 互いに教え合いながら学ぶとともに、学びを生活に活かすことができる
 ◇豊かな心(主として道徳) 知・技 … 基本的なルールが身についている(時間、挨拶、返事、態度など) 思・判・表 … 他者を尊重し、多様な考えを認め、問題解決ができる 学び・人間性 … 思いやりの心を持ち、進んで人のために行動できる
 ◇健やかな体(主として保健・体育) 知・技 … 基礎的な体の使い方ができる(姿勢、健康、安全) 習慣として確立された生活リズムで生活できる 思・判・表 … 予測を適切に行い、安全に過ごすことができる 周りの行動が見え、自分がすべきことを判断し、行動できる 学び・人間性 … 粘り強く体を鍛え、目標に向かって努力し続けることができる

基本方針	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組(4月)	取組指標(誰が、何を、どのくらいの頻度で)	評価指標(目標)※具体的な数字を入れる	指標の結果	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	学力向上の推進	学力向上プランに基づき、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。基礎・基本の徹底や学期末テスト・単元テストの活用を推進する。年度当初に「家庭学習の手引き」を配付し、「自主学習」に取り組む。JK担当教諭を中心に校内での研究課題の共有と授業改善に積極的に取り組む。	毎週金曜日に学年会、学力向上委員会を実施し、単元計画や指導計画を検討する。また、月に1回曜日日を4時間授業にし、教材研究日を設定する。JK担当と連携しながら単元計画や授業をデザインしていく。学期末テストを実施するとともに、分析結果を各学年へと還元し、授業改善につなげる。全学年でICT機器を活用し、タブレット学習(ロイノート、Navima等)の活用を毎日行う。	アンケート「授業がわかる」に肯定的回答をした児童の割合85%以上 アンケート「授業の中でタブレットを使うことができる」に肯定的回答をした児童の割合80%以上 アンケート「家庭での学習(宿題)は授業とつながっていると思う」に肯定的回答をした児童の割合90%以上 アンケート「国語科単元テスト」「算数科単元テスト」に関する問題の正答率80%以上	児童アンケート「授業がわかる」の肯定的回答:95.5% 児童アンケート「授業の中でタブレットを自分の判断で自由に使うことができる」の肯定的回答:89.8% 児童アンケート「家庭での学習(宿題)は授業とつながっていると思う」の肯定的回答:91.8% 国語科単元テスト 「知識及び技能」:1学期83.5% 2学期84.7% 3学期86.4% 「思考力・判断力・表現力等」: 1学期88.3% 2学期89.09% 3学期90.6% 算数科単元テスト 「知識及び技能」:1学期87.5% 2学期89.6% 3学期87.9% 「思考力・判断力・表現力等」:1学期78.0% 2学期84.8% 3学期78.1%	【学力向上の推進】 指標に示した全ての項目で当初目標を上回ることができた。特に児童アンケート「授業がわかる」の肯定的回答割合は非常に高く、教科指導において、指導と評価の一体化など本校での取組の成果と言える。また、JK事業などを通して課題解決に向けて児童が自ら学習方法を選択し、学びに取り組むことができてきている現状がうかがえる。家庭での学習の重要性を児童保護者とともに周知し、シームレスな学習を行うことができたことが伺える。 「知識及び技能」は年間を通して一定の水準を維持できたが、「思考力・判断力・表現力等」は学期の経過とともに低減する傾向が見られた。学習の深まりとともに、「思考力・判断力・表現力等」がより充実するよう取組を進める必要がある。 【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実】 指標に示した2つの項目で当初目標を上回ったり、追いつくことができた。本校では、概ね「Hirakata授業スタンダード」に基づく授業実践が日常的に行われていると判断できる。 「授業では、自分に合った方法や学び方を自分で選ぶことができる時間がある」の肯定的回答割合の高さから、今年度の授業者の学びが授業改善に結びついていることが見て取れる。昨年度に続き今年度も子どもが主役の学習活動による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて取り組むことができた。本校の授業改善の取組の醸成の様子が伺える。	【学力向上の推進】 指標に示した項目では、当初目標を上回れたことから、今年度の取組については次年度も継続していく。特にアンケート項目の3つ「授業がわかる」「授業の中でタブレットを自分の判断で自由に使うことができる」「家庭での学習(宿題)は授業とつながっていると思う」については90%を上回ったり90%に迫ったりする結果となったことから、次年度以降も高水準を維持したい。 今年度はJK事業により担当教員が国語の教材研究などで各学年の授業者に伴走しながら授業づくりに取り組んだため、学校全体での意思統一や取組の共有がしやすかった。来年度は校内研究部として部会をいかにかこの学校全体で授業づくりや学力向上に取り組むか検討が必要である。カリキュラムマネジメントや研修を重ね、単元での目標設定や計画の作成等の授業力の醸成に継続的に努め、数値の改善に取り組む。 【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実】 指標に示した項目では、当初目標を上回ったり、かなり近い数値が見られたことから、今年度の取組については次年度も継続していく。特に「授業では、自分に合った方法や学び方を自分で選ぶことができる時間がある」の肯定的回答割合の高さから、今年度の授業者の学びが授業改善に結びついていることが見て取れる。昨年度に続き今年度も子どもが主役の学習活動による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて非常に重要だと捉えることから、次年度以降も高水準を出したい。授業の中で、児童が自己決定、自己選択できる場面を積極的に設けるとともに、児童が自らの方法や学び方を自覚しながら課題解決し学習が深まるような実践力の向上に向け、校内研究部を中心に取り組んでいく。 【学習規律の徹底】 指標に示した項目で当初目標を上回ることができた。「Hirakata授業スタンダード」に基づいた「教師の役割はファシリテーターであること」及び「学びを子どもに委ねる」と留意した授業実践を行った成果だと捉えられる。また5Cの観点を意識し、児童の学びに向かう姿勢を大切に授業改善を行ったことが結果に繋がったことが予想される。タブレットを使用した探求学習などもこの結果に繋がっていると考えられる。
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実(子どもが主役の学校づくり)	「Hirakata授業スタンダード」に基づき、「めあて」、「振り返り」の徹底を図り、「主体的な学び」に向けた発問等の授業の工夫や「学び合い」を取り入れた授業、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を実現する。自己選択できる学習課題を設定することにより、児童一人ひとりが自己理解を基に自分の学習をデザインしていく。	全職員がHirakata授業スタンダードに基づく授業を毎時間行う。本校における教育活動が「一人一人の良さを徹底的に伸ばす教育」になるよう、校内研修等を通して授業改善を行う。	アンケート「授業では、自分に合った方法や学び方を自分で選ぶ場面がある」に肯定的回答をした児童の割合90%以上 児童アンケート「授業の最後にふりかえる活動をしている」に肯定的回答をした児童の割合80%以上	児童アンケート「授業では、自分に合った方法や学び方を自分で選ぶことができる時間がある」の肯定的回答:89.3% 児童アンケート「授業の最後にふりかえる活動をしている」に肯定的回答:86.7%	【「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実】 指標に示した項目では、当初目標を上回ったり、かなり近い数値が見られたことから、今年度の取組については次年度も継続していく。特に「授業では、自分に合った方法や学び方を自分で選ぶことができる時間がある」の肯定的回答割合の高さから、今年度の授業者の学びが授業改善に結びついていることが見て取れる。昨年度に続き今年度も子どもが主役の学習活動による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて非常に重要だと捉えることから、次年度以降も高水準を出したい。授業の中で、児童が自己決定、自己選択できる場面を積極的に設けるとともに、児童が自らの方法や学び方を自覚しながら課題解決し学習が深まるような実践力の向上に向け、校内研究部を中心に取り組んでいく。 【学習規律の徹底】 指標に示した項目では、当初目標を上回れたことから、今年度の取組については次年度も継続していく。「Hirakata授業スタンダード」に基づいた教科指導の充実とともに、生徒指導との両輪としての、より良い教育活動に向け、学校としての取組を続けていく。また、好例を共有するなど、学校全体として授業改善に取り組むことに努めたい。	
	学習規律の徹底とユニバーサルデザインされた授業	校内で共通の掲示物を使用したり、「Hirakata授業スタンダード」に基づいた授業の流れを徹底することで、進級による段差のない授業づくりをめざす。	「Hirakata授業スタンダード」に基づき、年間を通じて、全教員が毎日の授業における「学習の見通し」「じっくり考える活動」「交流し、深める活動」「まとめ・振り返り」のサイクルに留意した授業実践を行う。	アンケート「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に肯定的回答をした児童の割合85%以上	児童アンケート「授業を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的回答:87.5%	【学習規律の徹底】 指標に示した項目で当初目標を上回ることができた。「Hirakata授業スタンダード」に基づいた「教師の役割はファシリテーターであること」及び「学びを子どもに委ねる」と留意した授業実践を行った成果だと捉えられる。また5Cの観点を意識し、児童の学びに向かう姿勢を大切に授業改善を行ったことが結果に繋がったことが予想される。タブレットを使用した探求学習などもこの結果に繋がっていると考えられる。	
	自立の力を育む	生徒指導の4つの視点(自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成)に留意して授業や学級経営を行い、心理的安全性の高い学校を構築する。	年間を通じて、全職員は生徒指導の4つの視点(自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成)に留意して授業や学級経営を行い、心理的安全性の高い学校を構築する。また、児童は一人ひとり違っているという人権的な視点からも、学びに多様性を持たせていく。	アンケート「学校生活の中で、楽しいと感じること上がある」に肯定的回答をした児童の割合85%以上	アンケート「学校生活の中で、楽しいと感じること上がある」の肯定的回答:97.3%	【自立の力を育む】 指標に示した項目で当初目標を上回ることができた。年間を通じて、生徒指導の4つの視点(自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成)に留意した学級・学年・学校経営に取り組むことができた成果が表れている。	
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	豊かな心を育む	道徳教育を柱としながら、日常生活および行事を通じて心の教育を推進する。	担任は毎時間の道徳の授業で事項の生き方について考えを深めるよう指導する。校長が年6回の児童集会で豊かな心を育む講義を行う。	アンケート「命の大切さや、他人への思いやりをもって、行動することができる」に肯定的回答をした児童の割合90%以上	アンケート「命の大切さや、他人への思いやりをもって、行動することができる」に肯定的回答をした児童の割合は94.4%	【成果】 ・年間を通じて、集会や学校だよりを通じて「友達を大切に」「仲間と協力する」大切さを伝えてきた。教職員も日常の指導や道徳の授業を大切に、平和学習では学校全体で「命の大切さ・他人への思いやり」を育む取り組みを行った。その成果それら、子どもたちの中に、豊かな心が育ってきている。 ・授業の中で「自己選択・自己決定・自己調整」する場面を増やしたことで、子どもたちは日ごろから主体的に考えることが増え、それが「自分にはよいところがある」という、自己肯定感の向上につながっている。学校だよりでも、家庭も通じて自己肯定感を上げる働きかけを行った。 ・毎月の生活アンケートで子どもたちの困り感を把握し、丁寧に対応している。職員間でも人権大会や部会、生指連絡会を通じて気になる児童の情報を共有し、一人一人を尊重する姿勢が学校全体に広がっている。そのことが子どもたちにも伝わり、教室が安心できる場所となっている。 ・栄養士による食育指導により、子どもたちは食の大切さや望ましい食生活について理解を深めている。また、国語の授業で食品ロスを扱った教材を学んだり、給食委員から残菜を減らす呼びかけやおはなし給食での読み聞かせ等を通して、子ども同士でも食への意識を高めている。	
	自己有用感の向上	児童が主体的に決定する機会を増やし、自己有用感を向上させる。	学級担任、JK担当は学期に1回以上、自己選択・自己決定・自己調整のある単元計画を作り、児童が主体的に取り組む授業設計をする。	アンケート「自分にはよいところがある」に肯定的回答をした児童の割合80%以上	アンケート「自分にはよいところがある」に肯定的回答をした児童の割合は85.4%	【成果】 ・自己有用感を高めるためには、児童が主体的に選択・決定する場面をより多く設定する必要がある。そのため、教師はファシリテーターとしての役割と意識し、児童が自ら考え、判断し、行動できる授業づくりを一層推進する。 ・不登校・いじめ事案等については、未然防止に努めるとともに、個人にとどまらず校内組織として基本的なルールに基づいた対応を強化する。 ・「体づくり運動カード」を十分に活用できていない学年があったため、学年の実態に応じて使いやすい形に生活してきている。また、系統性を持たせ、どの学年でも取り組みやすい内容に改善し、継続的に活用できる仕組みを整える。 ・栄養士が毎日給食時間各教室を回って、その日の給食について話をしたり、月1回のおはなし給食で調理場の調理の様子を動画を撮影したものを教室で視聴することで、子どもたちが調理場の様子を知り、食への関心が高まっている。また、学校図書と連携し、おはなし給食に関連した書籍を図書室に並べて、日常的に食への意識を育む環境づくりが進んでいる。毎月の掲示に工夫があり、食育の効果が高まっているため、これらの取組を今後も継続していく。	
	人権教育の推進	全ての教科・領域において、人権教育・共生教育の充実を図る。	支援教育Coを中心に「人権教育全体会」(学期に1回以上)を通して全教職員で共通理解を図る。教職員の人権教育研修を1回以上実施する。	アンケート「あなたの学級は、1人1人を尊重し、安心して活動できる場所である」に肯定的回答をした児童の割合85%以上	アンケート「あなたの学級は、1人1人を尊重し、安心して活動できる場所である」に肯定的回答をした児童の割合は92.6%	【課題】 ・「体づくり運動カード」を十分に活用できなかった学年がある。	
	体力の向上	体力向上プランに基づき計画的に取組を行うとともに、各種の「運動カード」を使った主体的で楽しい運動を中心に体力の向上を図る。	学級担任は1学期に新体カテストに3・4・5年生が取り組む。水泳、縄跳び、持久走など目標を設定し、使いやすいカードを活用した指導を行う。民間ツールを活用し、児童の泳力の向上を図る。体づくり運動やボール運動などにより柔軟性、敏捷性を養う。	アンケート「体づくり運動やカードを活用した指導をよく行った」に肯定的回答をした教員の割合90%以上	アンケート「体づくり運動やカードを活用した指導をよく行った」に肯定的回答をした教員の割合は81.8%	【成果】 ・法令順守に向けた研修を定期的実施し、教職員の服務規律への意識を高めている。「自分事として考える」機会を設け、不祥事ゼロを継続している。 ・3学期にいじめに関する事例研修を行い、日頃から何でも言い合える風通しの良い職場づくりの大切さについても職員間で共通理解を深めることができた。 ・業務改善推進校として、JK担当を中心に、児童が「自己決定・自己決定・自己調整」できる授業づくりに取り組んだ。主体性を育む授業改善が進んでいる。 ・Teamsへの移行はスムーズに行え、情報共有の効率化や資料管理の簡便化など、業務改善に確実に手が届いている。	
教職員の資質と指導力の向上	食育の推進	食の大切さや望ましい食生活の基本を児童に身につけさせる。	給食の時間や家庭科などの時間を通して、食の大切さや安全、食生活の基本について学習させる。(栄養士は食育指導を各クラス1回以上)	アンケート「授業や給食で、食の大切さを学んでいる」に肯定的回答をした児童の割合90%以上	アンケート「授業や給食で、食の大切さを学んでいる」に肯定的回答をした児童の割合は94.1%	【成果】 ・「自分事として考える」機会を設け、不祥事ゼロを継続している。 ・3学期にいじめに関する事例研修を行い、日頃から何でも言い合える風通しの良い職場づくりの大切さについても職員間で共通理解を深めることができた。 ・業務改善推進校として、JK担当を中心に、児童が「自己決定・自己決定・自己調整」できる授業づくりに取り組んだ。主体性を育む授業改善が進んでいる。 ・Teamsへの移行はスムーズに行え、情報共有の効率化や資料管理の簡便化など、業務改善に確実に手が届いている。	
	服務規律の徹底	法令遵守するとともに、お互いのコミュニケーションを図り、不祥事を起こさない、風通しの良い職場づくりを行う。	管理職および担当者等は職員会議や打ち合わせで年間を通じて、全教職員に服務研修を行い、服務規律を徹底する。	体罰やハラスメント等の不祥事をゼロにする。アンケート「教職員間に信頼関係がある」に肯定的回答をした職員割合80%以上	アンケート「教職員間に信頼関係がある」に肯定的回答をした職員割合は92.8%	【成果】 ・「自分事として考える」機会を設け、不祥事ゼロを継続している。 ・3学期にいじめに関する事例研修を行い、日頃から何でも言い合える風通しの良い職場づくりの大切さについても職員間で共通理解を深めることができた。 ・業務改善推進校として、JK担当を中心に、児童が「自己決定・自己決定・自己調整」できる授業づくりに取り組んだ。主体性を育む授業改善が進んでいる。 ・Teamsへの移行はスムーズに行え、情報共有の効率化や資料管理の簡便化など、業務改善に確実に手が届いている。	
	校内研究の充実、授業改善・指導力の向上	授業改善の推進事業として「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進すること、「児童の確かな学力」を育む実践研究を行う。	JK担当は学期に1回、担任とTTを行い、児童が「自己選択・自己決定・自己調整」できる授業を展開する。	アンケート「全ての子どもが学習に参加できる個別最適な学びの授業づくりを行っている」に肯定的回答をした教職員の割合90%以上	アンケート「全ての子どもが学習に参加できる個別最適な学びの授業づくりを行っている」に肯定的回答をした教職員の割合は92.3%	【成果】 ・「自分事として考える」機会を設け、不祥事ゼロを継続している。 ・3学期にいじめに関する事例研修を行い、日頃から何でも言い合える風通しの良い職場づくりの大切さについても職員間で共通理解を深めることができた。 ・業務改善推進校として、JK担当を中心に、児童が「自己決定・自己決定・自己調整」できる授業づくりに取り組んだ。主体性を育む授業改善が進んでいる。 ・Teamsへの移行はスムーズに行え、情報共有の効率化や資料管理の簡便化など、業務改善に確実に手が届いている。	
	組織的な学校運営とICT活用・業務改善の推進	多くの教員に分掌の負担を担わせ、積極的に学校運営に参画させる。会議時間短縮を工夫する。業務改善の視点を持った行事等の反省・引継ぎ一層の充実を図る。Teamsを使った打合せ・会議資料の共有を行う。	管理職・教務が中心となって、会議内容の精選し、全職員が毎回Teamsを活用して時間短縮する。全職員が業務改善の視点を持って業務に当たり、毎回の行事等を見直す。	アンケート「校務分掌に積極的に関わっている」に肯定的回答をした教職員の割合90%以上 アンケート「学校は超過勤務時間の軽減に向け、校内の業務改善を図り、教職員の働き方改革に取り組んでいる」と思う教職員を75%以上にする。	アンケート「校務分掌に積極的に関わっている」に肯定的回答をした教職員の割合は89.3% アンケート「学校は超過勤務時間の軽減に向け、校内の業務改善を図り、教職員の働き方改革に取り組んでいる」と思う教職員は71.4%	【課題】 ・「自分事として考える」機会を設け、不祥事ゼロを継続している。 ・3学期にいじめに関する事例研修を行い、日頃から何でも言い合える風通しの良い職場づくりの大切さについても職員間で共通理解を深めることができた。 ・業務改善推進校として、JK担当を中心に、児童が「自己決定・自己決定・自己調整」できる授業づくりに取り組んだ。主体性を育む授業改善が進んでいる。 ・Teamsへの移行はスムーズに行え、情報共有の効率化や資料管理の簡便化など、業務改善に確実に手が届いている。	
学びのセーフティネットの構築	安全管理・安全教育的の充実	安全管理・安全教育的の充実を図る。危機管理マニュアルを見直しを行い、教職員に周知徹底し、災害に備えた危機体制を確立する。	安全教室として、交通安全教室(1年歩行、3年自転車)を実施。避難訓練(火災、不審者対応、風水害、地震)を実施。「教急入門コースジュニア」を3・5・6年生で実施。	アンケート「子どもは安心して学校生活を送っている」に肯定的回答をした保護者の割合90%以上	アンケート「子どもは安心して学校生活を送っている」に肯定的回答をした保護者の割合は95.8%	【成果】 ・危機管理マニュアルについては、毎年の見直しと改訂を継続し、安全教育も計画的に実施することで、児童が安心して学校生活を送れる環境づくりを進める。 ・「発達指示的生徒指導」の観点を日々の教育活動に生かし、児童一人ひとりの成長段階に応じた関わりを継続する。 ・「困ったことや不安があるときに学校に相談できる大人がいなくて」児童が約2割いる現状を踏まえ、相談しやすい体制づくりを強化し、日常的な声掛けや関わりを増やすことで、安心して相談できる関係づくりを進める。	
	生徒指導の充実	すべての児童への「発達指示的生徒指導」を推進する。	全職員が常にアンテナを高くして「いじめ・不登校」の未然防止、早期発見、早期対応」に努める。	アンケート「困ったことや不安がある時に、先生や学校に相談できる」に肯定的回答をした児童の割合90%以上	アンケート「困ったことや不安がある時に、先生や学校に相談できる」に肯定的回答をした児童の割合は81.1%	【課題】 ・「困ったことや不安がある時に相談できる大人がいなくて」児童が2割いる。	
家庭・学校・地域の連携	開かれた学校の実現	学校ブログ、学校だより等の発行で、学校や子どもの様子を保護者・地域に積極的に情報発信し、開かれた学校づくりを行う。	校長は学校ブログを毎日更新し、学校の様子を積極的に発信する。学校便りや学年便りを毎月1回以上発行し、学校の様子を伝える。	アンケート「学校は、ブログ等の発信や保護者・地域のかかりを通して、開かれた学校づくりをしている」に肯定的回答をした保護者の割合90%以上	アンケート「学校は、ブログ等の発信や保護者・地域のかかりを通して、開かれた学校づくりをしている」に肯定的回答をした保護者の割合は97.0%	【成果】 ・ブログでは学校の取組や子どもたちの様子が伝わるよう工夫して発信しており、学校だよりでも、学校として大切にしていることや児童の姿を写真とともに紹介することで、学校の教育活動を分かりやすく伝えている。これらの情報発信が、保護者からの高い肯定的評価につながっていると考えられる。 ・PTAや地域と連携し、学校及び地域の行事には多くの方々に参加していただいている。PTAや地域と連携し、学校及び地域の行事には多くの方々に参加していただいている。PTAや地域と連携し、学校及び地域の行事には多くの方々に参加していただいている。PTAや地域と連携し、学校及び地域の行事には多くの方々に参加していただいている。	
	家庭・地域との連携の充実	コミュニティスクールの取組を通して地域との中心となる学校を目指す。PTA実行委員会等を通して、PTA行事等を円滑に実施できるようにしたり、意見交流を通して保護者との連携を深める。	コミュニティスクールの取組を通して地域との中心となる学校を目指す。PTA実行委員会等を通して、PTA行事等を円滑に実施できるようにしたり、意見交流を通して保護者との連携を深める。	アンケート「学校は、家庭や地域と連携して学校づくりを行っている」肯定的回答をした保護者の割合90%以上	アンケート「学校は、家庭や地域と連携して学校づくりを行っている」肯定的回答をした保護者の割合は92.5%	【課題】 ・職員を含め、学校全体を巻き込んだ地域との連携には、まだ十分でない部分がある。	

学校関係者評価(学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による)年度末	
評価結果	改善に向けた方策
<p>樟葉南小学校の本年度の取組は、学校全体で共通の方向性をもって教育活動を推進していることがよく分かり、非常に高く評価できる。</p> <p>・授業改善、学習規律、生徒指導、食育、安全教育、地域連携など、多方面で確かな成果が見られた。</p> <p>・特に、「授業がわかる」「自分に合った学び方を選べる」など、児童アンケートの肯定的回答が高いこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己選択・自己決定・自己調整を重視した授業が定着し、子どもたちの主体的な学びが進んでいること 生活アンケートや日常の丁寧な関わりにより、安心して過ごせる学校づくりが進んでいること 食育や情報発信、地域との連携が継続的に充実していること <p>これらは、学校全体で取り組んできた成果として大きく評価できる。</p> <p>一方で、「思考力・判断力・表現力等」のさらなる向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい体制づくり 生徒指導の組織的対応 働き方改革の継続 <p>など、次年度に向けて取り組むべき課題も明確に整理されており、改善に向けた姿勢が感じられる。</p> <p>総じて、樟葉南小学校は「子ども主体の学び」を中心に、学校全体で教育の質を高めようとする姿勢が強く、今後のさらなる発展が期待される。</p>	<p>本年度の成果と課題を踏まえ、次年度に向けて以下の点を重点的に改善していく。</p> <p>【1. 深い学びにつながる授業改善の推進】 授業理解度や主体的な学びは定着してきたが、「思考力・判断力・表現力等」の伸びに課題がある。次年度は、単元全体を見通した授業デザインを強化し、児童が学びを自分ごととして深められるよう、言語活動や振り返りの質を高める。</p> <p>【2. 相談しやすい学校づくりの強化】 「相談できる大人がいない」と感じる児童が一定数いることを受け、日常的な声掛けや関わりを増やし、安心して相談できる体制を整える。生徒指導では、経験の浅い教員へのOJTを充実させ、組織的な対応力を高める。</p> <p>【3. 働き方改革と組織力の向上】 ICT活用（Teamsの整理・共有方法の統一など）を徹底し、業務の効率化を進める。風通しの良い職場づくりを継続し、服務規律の徹底と不祥事ゼロの維持につなげる。</p> <p>【4. 健康・安全・食育の充実】 危機管理マニュアルの定期的な見直しと安全教育を継続し、安心して過ごせる環境を維持する。食育では、栄養士・学校司書との連携を継続し、日常的に食への関心を高める取組をさらに充実させる。体力づくり運動カードは、学年の実態に応じて使いやすい形に改善する。</p> <p>【5. 地域・保護者との連携の深化】 学校だよりやブログによる情報発信を継続し、学校の取組や児童の姿を分かりやすく伝える。コミュニティスクールや地域行事への参画を続け、学校全体で地域とのつながりを育てていく。</p> <p>【まとめ】本年度の成果を確実に積み上げながら、課題に対して組織的に取り組むことで、「子ども主体の学び」と「安心して過ごせる学校づくり」をさらに推進していく。次年度も学校全体で共通理解をもち、継続的な改善に努める。</p>